Eco & Peace Navigator

エコ&ピースナビゲーター

2021年 2月号 Vol.26

食材のお届けだけじゃない!
パルシステム東京の
社会活動をご紹介。

〈環境編〉

パルシステムは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

発行日：2021年1月25日
発行：パルシステム東京 政策推進本部

14 海の豊かさを守ろう　15 陸の豊かさも守ろう　17 パートナーシップで目標を達成しよう

生物多様性って〜に？
〜今日からできることを始めてみませんか〜

生物多様性とは

地球上のいろいろな「生き物」がともに生きること。また、すべての「生き物」の間にある“違い”や“個性”のこと。この“違い”を表現したのが、「生態系の多様性」・「種の多様性」・「遺伝子の多様性」という言葉です。地球上の生き物はわかっているだけでも約170万種と言われていますが、実際には、1000～3000万種を超えると考えられています。生き物は、その環境やそこにいる生き物同士の関係によって“生態系”というつながりをつくっていて、私たちの命や暮らしも、様々な「生き物」や「自然の恵み」に支えられています。

生物多様性条約

生物に国境はありません。日本だけではなく世界全体で生物多様性保全に取り組むことが大切です。このため1992年5月に国際条約「生物多様性条約」がつくられました。2019年3月現在、日本を含む194ヵ国以上の国でいろいろな取り組みの話し合いがされています。

愛知目標

2010年に愛知県名古屋市で開かれた国際会議（生物多様性条約第10回締約国会議（COP10））で、193の国々が約束をして、生物多様性を守るために2020年までに目指すべき20の目標が決められました。しかし、その多くは目標に届かず、2030年に向けた新たな目標が話し合われています。

残念ながら私たちは、今も自分のワガママやムダづかいによって、この生き物の“個性”や“つながり”を壊し続けています。このまま壊し続けると、これまでいろいろな生き物によって支えられていた微妙なバランスがくずれ、今までになかった病気や災害、食べ物不足など取り返しがつかないことになるかもしれません。私たちは、「生き物とのつながり」に目を向け、小さなことでも良いので行動することが大切です。

生物多様性保全のためにできること ～まず知ること、体験すること～

旬のものや地元でとれたものを**食べる**

公園などへ出かけ、自然や生き物に**ふれる**

環境に優しい商品を**選ぶ**

人や文化とのつながりを守るために地域の活動に**参加する**

ペットは自然に放たず**最期まで飼育**する

かいぼり※で発芽！ “イノカシラフラスコモ”再発見物語

認定NPO法人 生態工房HP　詳しくはこちら

東京都井の頭池周辺で発見されたイノカシラフラスコモ。絶滅したと考えられていましたが「かいぼり」によって59年ぶりに復活しました。

※かいぼり：池や沼の水をくみ出して泥をさらい、魚などの生物を獲り、天日に干すこと。

～パルシステム東京では、認定NPO法人生態工房と一緒に在来種保護に取り組んでいます～

ぱる★キッズでも

「木育」を保育理念の一つに掲げるパルシステム東京の直営保育園「ぱる★キッズ」。『ぱる★キッズ探検隊～こんせんくんと冒険に出かけよう～』では、近隣の公園に四季を通じて草花や虫たちを探しに出かける行事を行っています。

パルシステム東京HP ぱる★キッズ　詳しくはこちら

お気に入りのどんぐりを見つけました！

3月の企画予告 井の頭池 ちょこっとウォッチング（生き物モニタリング）

日時：2021年3月14日（日）　会場：東京都井の頭恩賜公園井の頭池　●詳しくは、週刊WITH YOUでご案内いたします。
（新型コロナウイルス感染状況により変更する場合もあります）

裏面もご覧ください！

2011年3月11日、あなたはどこにいましたか？

東日本大震災から10年、忘れてはいけないこと、それぞれの想い

▲震災直後の宮城県南三陸町

エコ&ピースナビゲーター 2021年 2月号 Vol.26
〈復興応援特集号〉

8 働きがいも経済成長も　10 人や国の不平等をなくそう　11 住み続けられるまちづくりを

▲震災後のJR富岡駅（2013年度福島スタディツアー時に）

パルシステム東京では、「3.11東日本大震災を忘れない」を基本視点に、被災地、被災者の現状を知る福島スタディツアー等、組合員とともに取り組んできました。もうすぐ震災から10年。

今回、震災を経て、宮城と福島に住んでいる未来をつなぐ若者からメッセージを寄せてもらいました。

▲復興後のJR富岡駅（2019年度福島スタディツアー時に）

阿部 光華さん（14歳） 中学2年生（福島県いわき市）

震災が起きた当時、私は4歳でした。

大きな揺れがあったこと。余震がいつまでもあったこと。福島第一原子力発電所が爆発して外で遊べなくなったこと。同級生が避難していなくなったこと。転校生が引っ越してきたこと。公園が仮設住宅で埋め尽くされたこと。そんなことしか覚えていません。

私の住むいわき市は比較的放射線のレベルが低く、原子力発電所の近く（避難区域）に住んでいた人たちが多く引っ越してきました。私が入っていたテニスのクラブチームの人たちも避難してきた人ばかりでした。改めて考えると、もしもこの人たちがいわきに来てチームを作っていなかったら、私はテニスをしていなかったかもしれないです。震災でたくさんの人や物を失いましたが、私は震災で大切な友だちと出会うことができました。

時間も過ぎて、今私たちは元気です。福島はのんびりしていて、とても良いところです。

原子力発電所の爆発で嫌なイメージは付きましたが、多くの人が来てみたいと思うそんな福島になれればと願っています。私はこれからもずっと福島に住み続けたいと思っています。

▲3.11当時の阿部さん

▲現在の阿部さん

小野寺 翔さん（24歳） 林業家（宮城県南三陸町）

▲現在の小野寺さん

震災当時は14歳の中学2年生でした。

すぐそばで人が亡くなり、住み慣れた故郷の風景が飲み込まれる光景を目にし、変わらない環境の中で、今日を生きていられることが当たり前でないことを知りました。復興とは前向きに進んでいくものですが、ときには後ろ向きに、戻らない過去を振り返ることも大切だと思っています。

震災以前にもかけがえの無い日常があったこと、今日を生きたかった人がいることを忘れずに生きていきたいです。

◀パルシステム東京 東日本大震災復興支援活動報告書『Pray for Japan』こちらからご覧ください。

教えて こんせんくん！

語りつぎお話絵本3月11日（全8巻） WILLこども知育研究所・編

みんな、東日本大震災の時のことおぼえているかな？ 2011年3月11日午後2時46分。マグニチュード9.0、最大震度7の大きな地震が起きたんだ。海沿いの町をおそった巨大な津波…。そこで被害をうけた人たちを助けた勇気ある人のお話しをまとめた絵本があるんだよ。それが『語りつぎお話絵本3月11日（全8巻）』なんだ。その中の1冊を紹介するよ。避難所の小学校からお弁当を入れた「もっこ」と呼ばれる竹のかごを背負って、高台に住む20軒のお年寄りのおうちへ、一日三食をとどけていた岩手県宮古市の12歳と10歳の女の子のきょうだいのお話『もっこを背負って（4巻）』なんだ。

もうすぐ震災から10年目の春。この絵本を、家族と読んで、「たすけあう」、「ささえあう」ということの大切さを考えよう。

※こちらの本はすでに絶版となっていますので、お近くの図書館等で探してみてください。